

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

●第36回●

私の英語勉強法

私は入社以来、仕事よりも、連珠よりも、英語を一番熱心にやってきたと言っても過言ではない。(自慢することか?)

そこで、今回は、「私の英語勉強法」と題して英語の勉強方法をご紹介します。英語力を測る目安として、英語力を測る目安として、TOEIC(トピック)である。近年多くの企業や官公庁、大学が導入しているテストで、いつも実力に比例した測定ができるという触れ込みである。まずは、私のTOEIC(2年ごとの抜粋)点数は10点から90点までの間で5点刻みで示される。単純な1問○点という配点ではなく、標準偏差を利用して正当数から得点を出してい

1989年4月	450
1992年12月	580
1994年12月	655
1996年9月	690
1998年9月	785
2001年3月	790
2007年9月	645
2008年8月	675

るらしい。大学卒業時の平均点が400点以下というところなので、入社時(89年)の450点というのは、学生時代に連珠遠征で通訳などをやったおかげとされている。会社に入ってから10年間、会社主催の英会話教室(大体週に1回6時から2.5時間)を受けていたのが功を奏したのか、以後点が上がってきた。ついには790点まで上がった。しかし、つい最近また受けてみると、100点以上も下がっていた。この原因は転職により英会話の授業が受けられなくなったことでもあるが、TOEICの問題自体が変わり、読む量が増えたことにも一因がある。

会社に英会話教室があったことは、会社に入ってから一番良かったことだと思っている。が、たいていの方はそんなのはないだろう。そこで、英会話以外に私がやってきたことを紹介しよう。

①NHKの利用

せっかくの国営放送である。利用しない手はない。TVよりもラジオがお勧めである。(前々から疑問に思っているのだが、NHKラジオはTVの受信料から賄われているんだろが、ラジオしか聞かなかつたら只聞きゃなんじゃないか。ならばラジオは利用した方がお得である)テキストは用意した方がいいが、それも月数百円である。

②辞書を引く

わからない単語に出会ったら、必ず辞書を引くことが重要である。特に年を取ると記憶力がなくなってくる。覚えるには何回も頭に入れるしかない。「また同

じ所かよ」というぐらい同じ所を引いて、ようやく身につについていく。また、英字新聞を買って、辞書を片手に読んでみるのもいい。

③通勤時間の利用

英語はとにかく聞くのが重要である。朝晩の通勤時間を利用するのが最も効率的である。最近はiPodなんていう便利なものも増えてきた。1日30分でもいいから続けた方がいい。毎日の積み重ねが重要である。

④対策本を買う

TOEIC対策本はいまでは数多く売られている。もちろん買うだけではダメで、やらなければ意味がない。初心者はやたら買いたがるが、かえって逆効果になるのに注意が必要。

この他にも最近ではゲーム機を利用するなど、手法が増えてきている。

⑤とにかくTOEICを受

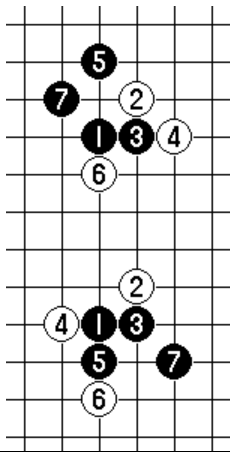
TOEIC受験料は安く

はないが高くもない。敵を知ることは非常に重要である。一度受けてみて、その壁の高さを知るのもいい。また、ある程度受験慣れによる得点アップも見込まれるので、できれば1年に1回は受けておきたい。

以上が具体的手段であるが、前提としてもっと重要な事がある。それは、**英語がうまくなりたい、という強い意志を持つ**ことである。これは、連珠上達には、連珠が強くなりたいたいという気持ちも最も大切であるということと共通する原則である。幸い私には、連珠の友達と会話したい、連珠世界連盟で中心的役割を担う必要がある、というモチベーション（動機）があったので、これまでも続けてこられたのである。モチベーションがない人がいくら時間をかけてもなかなか上達しない。

英語にももちろんコツと

いうものがあった、いかに英語的感覚を身につけるかが重要である。例えば連珠においては、二連を叩く、二連を作る、などの基本組み立ては、うまくなれば考えなくても浮かんでくるだろう。それと同じように、英語にも「何となく」という常識があり、それがわかってくる。得点力もアップする。棋譜がないのはさすがに寂しいので、2図ほど示しておくが、両方の黒7ともいかに連珠らしい一手である。



こういう手はいわゆる「反射神経」といふべき形で、考えずとも浮かぶようになれば、連珠らしい脳になってきたということだろう。また、実際に会話をして

役に立つ連珠用語の例

- Qualification (クオリフィケーション) = 予選。QTのQはこの頭文字
- lose (ルース) その過去形 lost (ロスト) = 負け。I lost だけでいい
- win (ウイン) その過去形 won (ウオン) = 勝ち。一番覚えておきたい
- take part in あるいは participate in (パーティシペイトイン) = 参加する。
I will take part in the 47th Meijinsen Tournament. など
- agree (アグリー) = 同意する。disagree (ディスアグリー) = 同意しない。
意見を言うときにどちらか言えば伝わる。I agree a draw. = 満局同意
- vote (ボート) = 投票する。RIF会議では挙手で投票する。
- veto (ベトウ) = 拒否権。日本、ロシア、スウェーデンが持っている。

みるとわかるのだが、英語力をつけるにはまず日本語が必要である。日本語が正しく話せない人が英語を正しく話せるはずがない。英訳する時にはいかに訳しやすい日本語にまず変換するかが重要である。

上に連珠でよく使う単語の一例を示したが、もちろんこの他にもいっぱいある。挨拶や日常会話などもちろん必要だが、枝葉末節な名詞を覚えるよりも、基本の名詞を覚えた方がいい。専門的になるが、日本人は名詞をつなげて文にしようとしがちである。ネイティブに話を聞いてみると、案外動詞を中心に使っている。動詞、助動詞を使った方がニュアンスも伝えやすい。

「始めるのに遅すぎることはない」とは有名な格言である。今からでも遅くありません。英語を勉強しませんか？